

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択必修
担当教員			
◎永吉雅人、高柳智子、伊豆上智子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 30時間
	【担当教員】 【氏名】 ◎永吉 雅人 高柳 智子 伊豆上 智子	【研究室】 211 203 313 実務経験のある教員が担当します。
【本学の科目区分】 教養科目		
【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程		
【D P 1】 【D P 2】 【D P 3】 【D P 4】 【D P 5】 【D P 6】 【D P 7】 ◎		

到達目標	1. 人間工学の基礎的概念と看護学との関係を理解する。 2. 人の動作に必要な機能の特性を理解する。 3. 人の動作分析方法の基礎を学ぶ。 4. 看護ケアの諸課題を人間工学の視点から説明できる。
授業概要	人間工学は様々な機器の設計や操作のための基礎概念になりつつある。患者と看護師の双方にとって負担が少ない安全な看護を行う上では、人間の身体的・心理的機能や特徴を理解した活動や環境が重要である。この授業では人間工学の基本的概念を理解するとともに、看護における人間工学の応用としてヒューマンエラーと看護技術のエビデンスを取り上げ、それらにおける人間工学の役割について理解する。
授業計画	1 授業内容 授業形態：対面授業 学習課題：人間工学とは 学習内容：人間工学の考え方 備考：永吉 2 授業内容 授業形態：対面授業 学習課題：ヒト-モノのかかわり 学習内容：看護における五感の役割 備考：永吉 3 授業内容 授業形態：対面授業 学習課題：看護動作を理解するための力学 学習内容：圧力、摩擦、作用反作用、重心線 備考：永吉 4 授業内容 授業形態：対面授業 学習課題：看護負担を軽減する基礎的技術 学習内容：テコとモーメント 備考：永吉 5 授業内容 授業形態：対面授業 学習課題：看護作業の負担軽減 学習内容：支持基底面と重心 備考：永吉 6 授業内容 授業形態：対面授業 学習課題：ボディメカニクス（1） 学習内容：姿勢と負担 備考：永吉 7 授業内容 授業形態：対面授業 学習課題：ボディメカニクス（2）

	<p>学習内容：動作分析 備考：永吉</p> <p>8 授業内容 授業形態：対面授業 学習課題：看護と情報のコントロール 学習内容：フィードバック・コントロール 備考：永吉</p> <p>9 授業内容 授業形態：対面授業 学習課題：身近な人間工学の応用 学習内容：睡眠・健康とのかかわり 備考：永吉</p> <p>10 授業内容 授業形態：対面授業 学習課題：医療安全とヒューマンファクター（1） 学習内容：医療・看護の提供と人、人間特性とエラー 備考：伊豆上</p> <p>11 授業内容 授業形態：対面授業 学習課題：医療安全とヒューマンファクター（2） 学習内容：医療の安全とヒューマンエラー、エラー誘発要因と事故防止 備考：伊豆上</p> <p>12 授業内容 授業形態：グループワーク 学習課題：看護技術のエビデンス（1） 学習内容：看護技術の検証方法の検討 備考：高柳</p> <p>13 授業内容 授業形態：グループワーク 学習課題：看護技術のエビデンス（2） 学習内容：人間工学的視点からみた看護技術の検証① 備考：高柳</p> <p>14 授業内容 授業形態：グループワーク 学習課題：看護技術のエビデンス（3） 学習内容：人間工学的視点からみた看護技術の検証② 備考：高柳</p> <p>15 授業内容 授業形態：グループワーク 学習課題：看護技術のエビデンス（4） 学習内容：成果発表・討議 備考：高柳</p>
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習：授業内容に応じて事前課題を提示します。 事後学習：これまで履修した科目で生じた疑問や自己課題を人間工学的視点で振り返り、理解を深めてください。
評価方法、評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 到達目標1～3について、課題40%、レポート15%で評価する。 到達目標1と4について、課題24%、授業時間内のグループワークへの貢献度・討議時の発言内容21%で評価する。
必携図書	・小川鑑一(2024)：看護の環境と人間工学 第2版、サイオ出版。
参考図書・資料等	・小川鑑一(2008)：イラストで学ぶ看護人間工学、東京電機大学出版局。
受講、課題、資料配布等のルール	<ul style="list-style-type: none"> 始業時間から20分以上遅れた場合を遅刻とし、遅刻2回で1回の欠席とみなす。 5回を超える欠席をした学生は不合格とする。
教員からのメッセージ	人間工学は、一見難しそうに見えますが、事前に特別な工学の知識は必要ありません。授業を通して学んで下さい。実際にからだやモノを使って、看護ケア等における動作分析をします。これから学ぶ看護技術も、人間工学を学ぶと、これまでとは異なる角度から理解できるようになります。
オフィスアワー	